

## 麻酔科研修プログラム

指 導 医 大島 孝・和田 弘樹・山田 茂行・松岡 信広・幡生 洋介  
遠藤 暢人・徳永 元秀・茶谷 祐一

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 必 修 科 目 6 週  
選 択 科 目 4 週～32 週  
小児科・産婦人科コース  
産 婦 人 科 主 科 必 修 科 目 6 週  
選 択 科 目 4 週～20 週  
小 児 科 主 科 必 修 科 目 6 週  
選 択 科 目 4 週～20 週

### 目的

手術患者の全身状態の医学的評価、気管内挿管を含めた気道確保及び各種麻酔法の基礎を身につける。

#### (1) 術前診察

##### A. 一般的な到達目標

術前患者の全身状態を的確に診察、評価するための基本的知識及び技能を身に付ける。

##### B. 具体的な到達目標

- 1) 既往歴、現病歴を把握できる。
- 2) 気道確保の難易度の予想に必要な診察ができる。
- 3) 術当日まで継続すべき薬剤、中止すべき薬剤が判別できる。
- 4) 麻酔リスクに関するASA分類ができる。
- 5) 麻酔とそのリスクについて患者及び家族に指導医とともに説明することができる。

#### (2) 麻酔

##### A. 一般的な到達目標

手術患者において生命維持の基本を学ぶとともに全身麻酔及び局所麻酔を経験する。

##### B. 具体的な到達目標

- 1) 正常解剖の患者でマスクによる気道確保と換気ができる。

- 2) 正常解剖の患者で気管内挿管ができる。
- 3) 正常解剖の患者でラリゲルマスク挿入ができる。
- 4) 酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度の意味を知り、異常の場合の鑑別診断ができる。
- 5) 輸液、輸血の適応を理解し、指導医のもとで管理ができる。
- 6) 血圧異常の鑑別診断と治療方針について説明できる。
- 7) 血液ガスの所見が説明できる。
- 8) 全身麻酔が指導医のもとで管理できる。
- 9) 局所麻酔薬の特徴、適切な投与量と濃度などを理解する。
- 10) 脊椎麻酔が指導医のもとで施行できる。

### (3) 術後

#### A. 一般的な到達目標

術後管理の基礎的知識を身に付ける。

#### B. 具体的な到達目標

- 1) 酸素投与方法とその適応について説明できる。
- 2) 術後鎮痛管理について説明できる。
- 3) 麻薬系鎮痛薬の副作用及び対処法を理解する。

### 評価

評価はEPOCを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。